

地区予選敗退のスポーツチームを強化するための提言

－ 組織風土の観点から －

金沢星稜大学佐々木ゼミナール A

○鳥山 稔 山下 圭介 片山 翼 永田 美帆 佐藤 真輔 小林 翔太

1. 緒言

これまでの研究で、檜塚ら（2008）は「集団凝集性は安定と増加の傾向があると、良い成績へつながる可能性がある」と述べており、Gully ら（2002）は「集合的効力感と集団パフォーマンスには正の関連性が認められることが報告されている」ことが明らかとなっている。つまり、両変数のレベルが高いチームは成績が良く、同時にパフォーマンスも高くなると予測される。

これまでも集団凝集性とスポーツ集団、集合的効力感とスポーツパフォーマンスとの関連についての研究は既にされている。しかし、それらの調査結果は集団凝集性、集合的効力感を高めるスポーツ組織の特性について言及しているものではない。

そこで、本研究では全国大会に出場及び入賞を続けているスポーツチームと地区予選敗退のスポーツチームの集団凝集性、集合的効力感の差の調査に加え、なぜ 2 つの組織との間で違いが生じるのかを組織風土の観点から調査することとする。

2. 研究目的

本研究を通じて、地区予選敗退のスポーツチームが全国大会に出場するために、必要な要素を集団凝集性、集合的効力感、組織風土の 3 つの変数から調査する。そして、その調査結果がどのように全国大会に出場できていないスポーツチームに影響するのかを明確にし、スポーツチームの成績とパフォーマンス向上のための政策提言を行うこととした。

3. 研究方法

(1) 調査対象者

石川県の私立高校で全国大会に 17 年連続出場している星稜高校のサッカー部員代表レギュラー 25 名、同じく石川県ベスト 4 の A 高校サッカー部員代表レギュラー 22 名の 2 校を対象とした。

(2) 調査日時

2016 年 9 月 27 日～9 月 29 日

(3) 調査の手続き

練習後に集団調査形式で実施した。調査対象者に質問紙を配布した後に、

研究についての説明を行った。調査対象者から研究協力への同意を得た後に、質問紙への回答を求めた。回答は各自のペースで行った。回答時間は 10 分であった。

(4) 質問項目の概要

ア. 集団環境質問票 (GEQ) の翻訳版尺度 (内田ほか, 2014)

20 項目、5 つの下位尺度で構成されている。

イ. 日本語版スポーツ集合的効力感尺度 (内田ほか, 2014)

18 項目、4 つの下位尺度で構成されている。

ウ. 組織風土尺度 (樋口, 1996)

20 項目、3 つの下位尺度で構成されている。

4. 結果

2 校の集合的効力感の調査結果を図 1 に示した。「能力」から「結束力」までの 5 つの下位尺度すべてで星稜高校の方が高い数値が出た。特に、「能力」「努力」「結束力」で高い得点がでた。「忍耐力」ではやや星稜高校の方が高い数値が出ているが、あまり差異はなかった。また、「準備力」はほぼ差異がない結果となった。

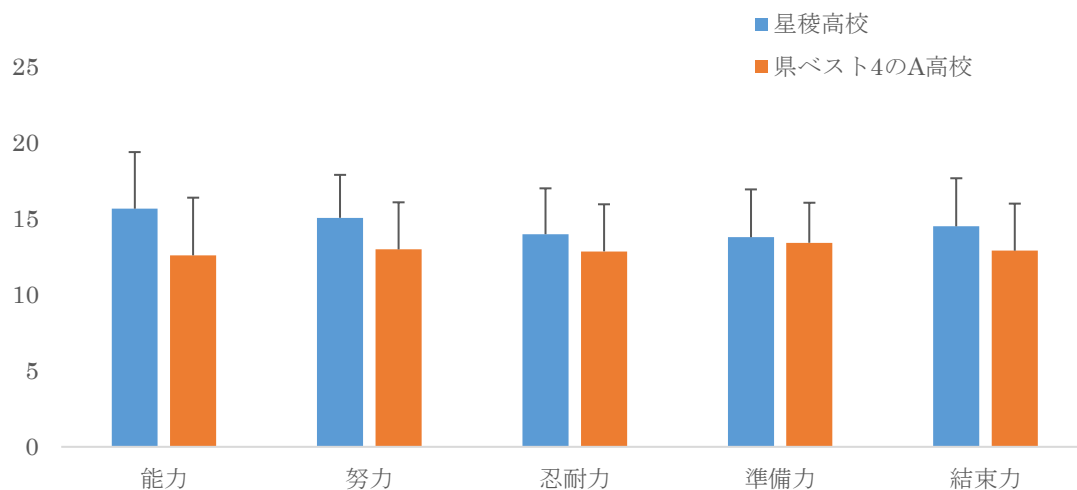


図 1 2 校の集合的効力感の差異

次に 2 校の集団凝集性の違いを図 2 に示した。その結果、2 校の差は集合的効力感ほど大きな違いがみられなかった。中でも「集団の社会的側面に対する個人的魅力」はほぼ差異は見受けられなかった。「集団の課題に対する個人的魅力」「集団の社会的側面に対する一体感への個人的評価」では、県ベスト 4 の A 高校の方がわずかながら高い数値が出た結果となった。また「手段の課題に対する一体感への個人的評価」もまた差異

は見受けられなかった。

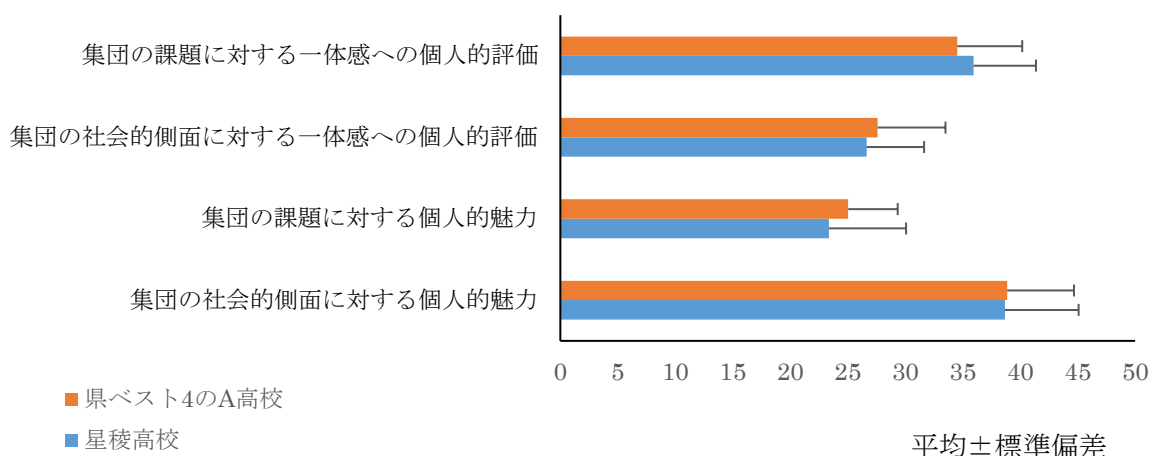


図2 2校の集団凝集性の差異

以上の結果から、なぜこのような違いが生じたのかを組織風土の観点から調査した結果を図3に示した。その結果、自由なコミュニケーションは2校で差はなかったが、イノベーションの受け入れは、星稜高校の得点が高い結果となった。そして、クラブ中心の統制でA高校との差が最も大きな差が示され、星稜高校の方が高い得点を示した。

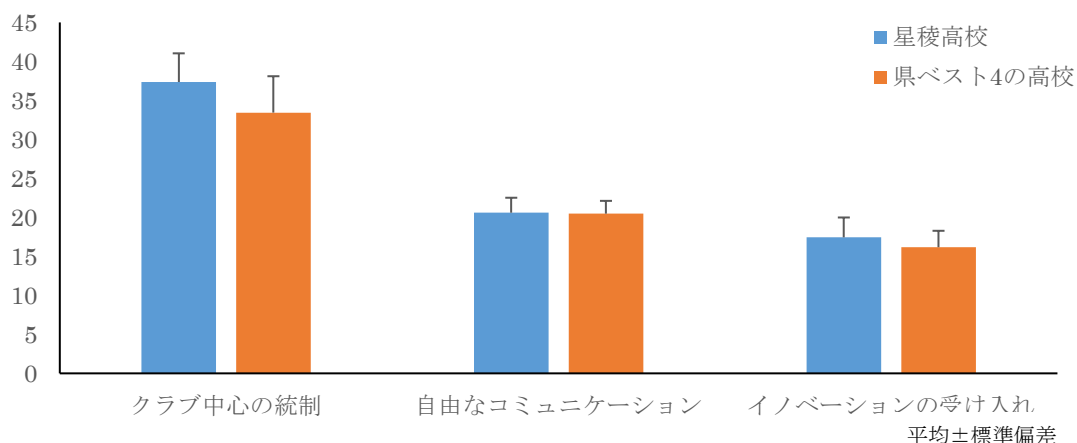


図3 2組の組織風土の差異

5. 考察

集団凝集性、集会的効力感、組織風土の調査結果より、星稜高校とベスト4高校の集団凝集性に差はほぼなく、集会的効力感は星稜高校がすべての尺度においてA高校を上回っていた。そこで、組織風土の観点から調査した結果、クラブ中心の統制において星稜高校の方が県ベスト4のA高校よりも高い得点が示され、最も差が大きい結果となった。また、イノベーションの受け入れにおいても県ベスト4のA高校よりも星稜高校の

得点が高い結果となった。

県ベスト4のA高校よりも星稜高校の方が集合的効力感で高い得点が示された。したがって、チームパフォーマンスを高めるには、集合的効力感を高めることが重要であると考えられる。また、集団凝集性の値に2校で差が生じなかった。したがって、集団凝集性はチームパフォーマンスの高さに関連性はないと考えられる。

星稜高校の方がなぜ集合的効力感の得点が高いのかについて、組織風土の観点から考察する。組織風土で星稜高校がクラブ中心の統制及びイノベーションの受け入れで高い得点が示された。チームの集合的効力感を高めるには、チームの規範を重んじ、新しいことを積極的にチーム内に取り入れようとする雰囲気重要であると考えられる。

6. 結論

スポーツチームの成績とパフォーマンスを向上させるためには、集合的効力感を高める必要がある。それには、クラブ中心の統制とイノベーションの受け入れを高める組織風土が重要であるといえる。

7. 政策提言

以上の研究結果より、組織風土の向上がチームのパフォーマンス向上に繋がるということが明確になった。このことから、組織風土の中でも特にクラブ中心の統制とイノベーションの受け入れが、チームのパフォーマンス向上に繋がっていることを地区予選敗退チームの指導者に説明し、理解をしてもらった上でこの組織風土の2つの尺度の部分を改善し、強化してもらうことを提言する。

8. 引用文献・参考文献

樋口 康彦 (1996). スポーツ集団における組織要因とメンバーの達成動機との関連について 関西大学

檜塚 正一・五藤 佳奈・伊達 萬里子・田嶋 恭江 (2008). 集団凝集性と心理的競技能力の関連性について—大学女子ハンドボール選手の場合—

内田 遼介・土屋 裕睦・菅生 貴之 (2011). スポーツ集団を対象とした集合的効力感研究の現状と今後の展望：パフォーマンスとの関連性ならびに分析方法に着目して

内田 遼介・町田 萌・土屋 裕睦・釘原 直樹 (2014) スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討

Gully, S.M., Incalcaterra, K.A., Joshi, A., and Beaubian, J.M. (2002) A meta-analysis of team efficacy, potency and performance: Interdependence and level of analysis as moderators of observed relationships. *J. Appl. Psychol.*, 87: 819-832.